

鎌倉光明寺の御詠歌

曾 我 晃 也 作 曲
菊 地 謙 雄 振 付

記主禪師(良忠上人)は多くの著書を残された この著書の内容を後世の人々がよく守り忘れず
己れの信仰確立につとめるようにとのお諭しである

入場	右手で扇の柄を握り表を外にし斜めに保ち右腰部に当て左手は親指を内に軽く握り左腰部に当て舞の定位置に至る 右膝左膝の順に地につけて座り扇を表上「要」右にして膝前に置き合掌低頭して両手膝の上に置く	
唱え奉る	静かに合掌	
鎌倉光明寺の	左手片手合掌のまま右手で扇の柄を持ち上げ表を上にして中央部を両手合掌の親指、人差し指の間に挟み持つ	
御詠歌	そのまま静かに立つ	
に	入場の時の要領により両手を腰部に保つ	
歌	呼間	舞
(半拍休) お	四呼間	右足正面へ一步踏み出し体重も移しながら扇を両手で胸前に保ち静かに開く (扇表上) 次に左手で扇の左部を持ち左足を右足に揃えたと同時に腰を落とし、同時に右手上方から降ろし人差し指にて扇表面の中央部を指す
し		
え		
お		
く	四呼間	腰を静かに伸ばしながら右手を徐々に垂直に 挙げ正面上方を指す 顔も右手につれて上方を仰ぐ
し		
え		
お		
(半拍休) お	四呼間	右足を右斜前に出し体重を移しながら右手親指下にして扇の要を持ち扇を返して表面を正面向きとし左手も扇に添えて右上方に挙げる 顔も扇の動きにつれて右上方に向ける(二呼間) 次に左足を右足前から右斜前に出し腰を落しながら左手で上弧を描き左下方に押える如く伸ばす 顔も左手の動きを追う
し		
え		
お		
く	四呼間	前節の逆動作を左方に行う
し		
え		
お		
(休) この こ と	四呼間	右足を右方に踏み出すと共に腰を落とし(一呼間)直ちに腰を伸ばすと同時に左足から小刻みに右一回転しながら右斜後方に進み正面向きに両足を揃えて腰を落として止る(四呼間)この動作と同時に両手は(扇は右手で要を持つ)体前中心を下方に降ろし更に両側を通して大きく上方に廻し上げ正面に降ろし左手を右手に重ねる(両掌内向き)と共に軽く腰を落とし顔も軽くうつむく(扇表正面)

歌	呼間	舞
の は の	四呼間	前節の動作を繰り返す
(半拍休) ゆ く す え	四呼間	左足を一步左方に出し体重を移しながら扇正面向きのまま左手扇の左部に移し右手扇の要を支え左上方に挙げる顔は扇の動きを追う(二呼間)次に右足を左足前を通して左に出し少し腰を落とすと共に同時に両手上弧を画くように右横下に降ろす顔は扇の動きを追う
を	四呼間	前節の動作を繰り返す
(半拍休) お も い わ す れ ず	四呼間	右足を一步右に出し体重を移すと共に(右手扇の要)両掌を正面向きにし水平に肩巾(扇表前向き)に押し出す(二呼間)つづいて左足を右足後方に「チョン」とつけると同時に上体及び両手を右方に傾け顔は左稍上方を見る
(半拍休) お も い わ す れ ず	四呼間	同じ動作を左に行う 即ち左足を左に一步出し体重を移し右足を左足の後方に「チョン」とつくと同時に上体及び両手を左方に傾け顔を右やや上方に向ける(両手は上弧を画く如く、扇表前向き)
(休) わ れ	四呼間	右足を一步正面に踏み出し 体重を移しながら両掌を 下向きにして(右手扇面下向き)体前にて左右に開く

歌	呼間	舞
を	四呼間	両足つま先で小刻みに前進し両足を揃えて止る 同時に両手は両側から体前へ肩巾にて両掌を向かい合わせにして頭上高く挙げ上方を仰ぐ
｜		
｜		
｜		
｜ と	二呼間	鈴鉦同時の()音と同時に両手掌(扇表)をサッと正面に向ける(両手頭上のまま)
ぶ	四呼間	両手ゆっくりと両側を通して降ろし(右足一步前の出方) 中央体前にて扇の表を上にし左手を添えて 眼前高く捧げあげる
｜		
｜		
｜		
ら	四呼間	そのまま 高く扇を閉じ 合掌(両親指に扇を挟む)
｜		
｜		
｜		
え	四呼間	両手合掌のまま胸前に降ろすと共に右足を引き 正座して扇を保持したまま 徐々に五体を合掌のまま 投地する
｜		
｜		
｜		
｜ (休) (休) (休)	四呼間	鈴の音(前小節から3目の鈴の音)を聞いてから 合掌のまま上体を起して両手を降ろし右手にて扇を 膝前に置き左手膝に降ろし更に右手を膝にとる
退 場		合掌低頭して右手にて扇をとり、左膝をくずして立ち上り両手を腰に構えて退場する

ポイント注意

【入場の所作】 右手で扇の表を外にして握り、右腰に斜めに当てます。左手は親指を内に軽く握り、左腰に当てます。

【このこと】 廻り方。元の位置に戻ることを考えて斜めに行き過ぎない様に廻りましょう。

【えー——】 扇を置く時は左手は握ったまま、そして、右手を戻すと同時に左手を開きます。